東京都文化事業「ARTE TOKYO」
特別企画《まさゆめ》奥多摩会場 視察報告書

報告者 瑞穂町議会議員 井上 かずや

視察日時	2026年11月21日（土）13:30〜14:00頃
視察場所	奥多摩総合運動公園（掲揚場所）周辺、奥多摩町立氷川小学校（一般観覧会場）
対象事業	東京都・東京国際文化芸術祭実行委員会主催「ARTE TOKYO」特別企画《まさゆめ》
実施予定	2026年11月21日・22日 13:30〜17:30（奥多摩町は会場提供等に協力）

1．視察の目的と事業概要

東京都（生活文化局）および東京国際文化芸術祭実行委員会が主催する文化芸術祭「ARTE TOKYO」の特別企画として、現代アートチーム・目［mé］による巨大立体作品《まさゆめ》が奥多摩町で実施された。本視察では、多摩地域における広域文化事業の運営状況や現場での取り組みを確認するとともに、開催地域への情報発信、来場者の誘導、事業全体の成果の捉え方について考察することを目的とした。

なお、東京都の令和8年度生活文化局予算案では、東京国際文化芸術祭の開催経費として9億円が計上されている。また、東京国際文化芸術祭実行委員会の資料には、令和8年度の事業に係る委託契約の目途額として7億9,000万円が示されている。この金額は東京都全体で展開する芸術祭事業に関するものであり、《まさゆめ》奥多摩会場単独の事業費ではない。また、契約目途額は最終的な支払額を示すものでもない。

本報告書では、これらの事業規模を踏まえつつ、現地で確認した状況と、今後東京都に検証・改善を期待したい点を整理する。

2．現地の状況と所感

（1）運営・安全管理への真摯な取り組み

会場周辺には警備員が配置され、安全管理体制も整えられていた。東京都の担当者や運営事業者が、安全を第一に考えながら、それぞれの立場で事業を実施しようとしている姿勢が現場からうかがえた。こうした現場を支える方々の取り組みは、まず評価すべき点である。

（2）作品の印象と山間部ならではの視認性

奥多摩の豊かな自然の中に、実在する個人の顔を模した巨大な立体作品が浮かぶ光景は、日常に驚きや違和感をもたらす現代アートならではの試みである。一方で、自然景観に溶け込むというより、異質さが際立つ表現でもあり、受け止め方は人によって分かれると感じた。

また、奥多摩町は急峻な山間部であり、樹木や山肌によって視界が遮られるため、作品を確認できる場所は氷川地区の集落の一部や指定会場など、限られた範囲にとどまっていた。開催地の地形や観覧可能な範囲を踏まえ、より多くの人が作品を楽しめる観覧環境を事前に検討することが重要であると感じた。

（3）来場者の状況と、広報・誘導への疑問

開始時刻の13時30分を過ぎた14時頃、一般観覧会場である奥多摩町立氷川小学校の校庭には一般来場者がまばらで、やや寂しい印象を受けた。メディア関係者の取材は見られたものの、作品の特徴や企画の話題性を考えると、より多くの人が訪れていてもよいのではないかと感じた。

また、奥多摩総合運動公園の対岸の山側で居合わせた地元住民にイベントの開催を尋ねたところ、「そのようなイベントがあるとは知らなかった」との声が聞かれた。子どもを含む住民にも開催が十分に知られていない様子がうかがわれ、開催地域への事前周知がどのように行われていたのか、気になった。

当日は紅葉シーズンで、駅周辺や都道の歩道には多くの観光客が訪れていた。しかし、会場への案内表示は控えめで、イベントに気づかず通り過ぎる人の姿が見受けられた。実際に撮影していると、通りがかりの観光客から「何かあるのか」と声をかけられ、一緒に作品を眺めながら会話が生まれる場面もあった。この経験からも、周辺にいた観光客

の関心を会場へつなげる余地があったのではないかと感じた。

開催発表は10月23日で、奥多摩での実施日まで約1か月であった。発表時期だけをもって周知不足の原因と断定することはできないが、地元住民、観光協会、観光事業者等と連携し、地域に情報を届けるための準備期間や手法が十分だったのか、検証が必要である。

3．事業規模を踏まえて考えたいこと

東京都の令和8年度生活文化局予算案には、東京国際文化芸術祭の開催経費として9億円が計上されている。さらに、実行委員会の契約予定案件資料では、事業全体の進行管理・ディレクション、作品・体験・周遊等の企画運営、広報プロモーション、事務局運営などを含む委託契約の目途額として7億9,000万円が示されている。

ここで重要なのは、これらの金額を奥多摩会場だけに要した費用として捉えないことである。一方、東京都全体の文化芸術事業として相応の予算を投じる以上、個々の企画が事業全体の目的にどのように貢献し、どのような成果につながったのかを把握することは欠かせない。

文化芸術の価値は、来場者数や経済効果だけで測れるものではない。新しい芸術表現に触れる機会をつくること、都市の魅力を発信すること、文化芸術への関心を高めることなど、数値だけでは捉えきれない意義もある。しかし、数値だけでは測れないからこそ、何を目指し、どのような成果を期待し、実施後にどう検証するのかを、あらかじめ明確にしておく必要がある。

今回の視察は、開催初日の約30分間、14時頃までの限られた時間帯における確認であり、この状況だけでイベント全体の来場者数や成果を判断することはできない。それでも、観光客が多く訪れている時期・場所でありながら、会場への誘導が十分に目に入らず、地元住民にも開催を知らない方がいたという現地の状況は、広報や地域連携のあり方を考える材料になる。

4．東京都に改めて考えていただきたい点

① 企画の魅力を来場につなげる広報戦略

開催告知を行うだけでなく、誰に、いつ、どの媒体・経路で情報を届け、実際の来場につなげるのか。駅、観光案内所、主要な散策ルート、宿泊施設、飲食店、観光協会、地域団体等との連携を含め、広報計画と実施結果を検証することが必要である。

② 開催地域の住民への説明と参加の機会

会場を提供する自治体や地域住民に対し、企画の趣旨や開催内容を早い段階から伝え、地域が内容を理解し、関心を持ち、可能な範囲で関われる機会を設けることが望ましい。

③ 地域特性と観覧者の動線を踏まえた会場設計

山間部の地形、作品の視認性、交通事情、駐車場の容量、公共交通からのアクセスを事前に確認し、観覧場所や案内表示、誘導方法を一体的に設計する必要がある。

④ 委託業務の内容・履行状況・成果の確認

広報プロモーションを含む委託業務について、具体的な実施内容、成果物、実施時期、評価指標を明確にし、発注者である東京都・実行委員会が、契約に基づく業務の履行状況と事業目的への貢献を確認することが重要である。

⑤ 契約方式と費用の説明、事業全体の評価

特命随意契約を採用する場合には、その選定理由や契約内容を適切に説明できることが大切である。また、委託費の内訳や再委託の状況、各企画の成果を確認し、事業全体として公費に見合う価値をどのように生み出したかを検証することが求められる。

5．総括

今回の視察では、安全管理に取り組む現場の姿勢を確認する一方、一般観覧会場の来場者がまばらであったこと、地元住民の中にも開催を知らない方がいたこと、紅葉を楽しみに訪れた観光客がイベントに気づかず通り過ぎていたことが印象に残った。

特徴的な芸術作品を実現することは、文化芸術事業の大切な一面である。しかし、作品を設置し、予定どおりイベントを実施することだけで、事業の目的が達成されたとは限らない。作品の魅力を誰にどのように届け、開催地域の人々にどう受け止めてもらい、地域や都民にどのような価値を残すのかまで考えることが重要である。

事業を専門事業者に委託すること自体を問題とするものではない。専門性を生かした企画・運営は必要である。ただし、委託したことによって東京都の責任が終わるわけではない。契約に定めた業務が実施されたかに加え、その業務が事業の目的や成果に結びついたのかを、発注者として主体的に確認し、次の事業に生かしていくことを期待したい。

大きな予算を投じることそのものが、文化芸術の価値を高めるわけではない。その予算によって、どれだけ多くの人が新しい芸術に触れ、開催地域との交流が生まれ、次につながる価値を創出できるのか。東京都には、事業を実施することにとどまらず、その魅力を人々に届け、成果を確かめるところまで、責任を持って取り組んでいただきたい。

今回の取り組みが単発のイベントとして終わることなく、今後の東京都の文化芸術事業や多摩地域における自治体連携を、より良いものにしていく契機となることを期待したい。

参考資料・確認上の留意点

・東京都「令和8年度 生活文化局 予算案の概要」：東京国際文化芸術祭の開催経費9億円（予算案）

・東京国際文化芸術祭実行委員会「第9回総会（当日資料）」資料4：令和8年度事業の契約予定案件、契約方法（特命随意契約）、契約目途額7億9,000万円、委託内容

・ARTE TOKYO公式「まさゆめ（多摩）」：奥多摩町での実施日程、掲揚場所・観覧場所、無料・予約不要等

・東京都報道発表（2026年10月23日）「秋冬の東京を文化で彩る新たな文化芸術祭『ARTE TOKYO』3つの特別企画を追加発表」

・現地視察報告書（本報告書の基礎資料、2026年11月21日視察）

【金額に関する留意点】9億円は東京都の令和8年度予算案における芸術祭開催経費、7億9,000万円は実行委員会資料に記載された事業全体の委託契約目途額であり、奥多摩会場単独の費用、最終的な契約額または支払済額を示すものではない。現時点で奥多摩会場への配賦額や最終的な支出額は確認できていない。

【視察時点に関する留意点】来場者の状況は、2026年11月21日（土）13:30～14:00頃に現地で確認した範囲の記述であり、2日間全体の来場者数や事業全体の成果を示すものではない。

・https://www.seikatubunka.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/seikatubunka/no1_yosanan_no_gaiyou

・https://files.microcms-assets.io/assets/cb3d8369f7184015a9685f71c8b1c688/b4efc680225f41f29f9a5983b210b36f/%E7%AC%AC9%E5%9B%9E%E5%AE%9F%E8%A1%8C%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A%EF%BC%88%E5%BD%93%E6%97%A5%E8%B3%87%E6%96%99%EF%BC%89.pdf

・https://artetokyo.jp/ja/programs/masayume_tama/

・https://www.metro.tokyo.lg.jp/ja/information/press/2026/10/2026102310